

個別通知や新聞広告で周知徹底を！

しかし会社の対応は今後もホームページのみで、個別通知や新聞広告などは考えないということですが、個別通知と言っても、一九八一年（昭和五六年）以後の退職者

約七〇〇〇人のうち、労組OB会会報による約二〇〇〇人を除く人に、「二〇〇七年当時残っていた人事データの範囲で」（六月回答文）郵送したのが一回きりです。

一度きりのダイレクトメール

まだ、「石綿健康診断」を受診されていない方で、受診を希望される場合には、退職時に在籍しておられた事業所の窓口までご連絡ください。健康診断受診に際し、費用の有無・手続き等についてご説明いたします。

なお、弊社ホームページや川重労組OB会等を通じ、既に「石綿健康診断」を受けられた方は対象外となります。重ねての通知となりました場合はご容赦ください。

【お問合せ窓口】

川崎重工株式会社	
神戸：神戸事務所安全保安課	078-682 5007
兵庫：車両管理部総務労働課	078-682 3151
播磨：播磨工場安全保健課	0794-35 2173
株式会社 川崎造船	
神戸：総務部安全・勤労グループ	078-682 5008
坂出：業務部安全衛生グループ	0877 46-8047
その他	
川崎重工株式会社	
人事労政部安全保健室	078-371 9576
	以上

元従業員の皆様へ

平成19年7月
川崎重工株式会社
株式会社 川崎造船

石綿製品を取扱う職場におられた 退職者の方の石綿健康診断について

(お知らせ・ご案内)

弊社では、船舶・車両・ボイラ部門において、石綿製品を主として断熱・防熱などの目的で使用していました。石綿製品の使用、非石綿製品への切り替え促進および作業員への健康管理上の措置については、当時における法令の水準を遵守してきましたが、残念ながら、当社でも石綿が原因と推測される健康障害が発生しています。

石綿による健康障害は、極めて長い期間を経て発症することが特徴とされており、また退職後に発見されているケースが大半であることから、在職中に石綿製品を取扱う業務に従事されていた方について、「石綿健康診断」を実施しています。

もつと古い人までさかのぼれるはずで、中途退職の人の扱いはどうするのでしょうか。構内の下請け労働者にはだれが伝えるのでしょうか。川重の神戸・兵庫両工場だけで厚労省発表以後でも一二六名の石綿労災認定者が出ているのです。新規退職者も含め、毎年調査をして個別通知を送ってほしい。

その当たり前の努力と同時に、新聞広告などを通じた周知の徹底に取り組みむべきと思います。川崎重工のテレビや新聞を通じた広告宣伝費は膨大な額のはずです。「川重」の今日を築く礎となった多くの石綿被災労働者の早期救済にそこまで予算を割けないとは、それこそ、口が裂けても言ってもほしくないのです。

* (川崎重工への質問のうち、「貴社の産業医は職場の石綿被害の予防と救済のためにどのような役割を果たしたのでしょうか。」「どうしてこうして回答はない。」「産業医は、労働者の健康管理のために事業者に必要な勧告を行い、その内容は必ず安全衛生委員会に報告される。」「最後に、もし私たちが会社との話し合いを行っていないければ、和解条項は間違いなく神棚に上げられたままだった。）」

川重への問い合わせは

神戸工場事務所安全衛生課
078-682-5007

神戸造船工場安全衛生課
(現船舶海洋カンパニー)
078-682-5466

兵庫 人事総務部安全衛生課
078-682-3031

関連企業
人事本部安全保健部
078-371-9576 など

(ひょうご、尼崎各安全センターにも問い合わせあり)

(朝日新聞) 2017年(平成29年)8月18日(金) 13版 総合2 2

クリーニング業界の労働環境改善に取り組む

かずゆき 鈴木 和幸 さん(57)



「朝5時から夜中まで働かされる」「残業代が出ない」。タイムカードの画像とともに、メールが届く。自費で会いに行き、解決に向けて乗り出す。

3年前、NPO法人「クリーニング・カスターマーズサポート」を設立し、理事長を務める。利用客の苦情を受けて業界を改善するつもりだったが、次々と舞い込んだ

クリーニングに労基法を！

のは内部からの悲鳴だった。気軽に利用できるクリーニング。「それを支える低価格競争の陰に、不当な労働を強いられている人がいる」という。10万以上の施設があり、競争は厳しく、「待遇改善どころか、労働基準法を守ってくださいというレベルの業者がまだたくさんある」。

福島県須賀川市で100年ほど続くクリーニング業の3代目。業界への苦情をまとめて出版したこともあるが、そのミスや手抜きも多くは劣悪な労働環境が原因で起きると知った。全国に同志を募り、NPOを結成した。

「友達をなくすぞ」と言われても活動を続けるのは「子供の頃から強かった闘争心」という。大学時代は学生プロレスに明け暮れ、メキシコでの修業を考えたことも。ウルトラマンを生んだ映画監督の円谷英二の生家が近く、研究者としても知られる。

最近では、しみ抜き料金の先取りは「違法だ」とキャンペーンを張る。「業界を洗濯するのが私の使命」

文・写真 東野真和